

雛の今昔物語

胡蝶(天正時代・個人蔵)

胡蝶(明治30年代・個人蔵)

平成23年

2月22日 ▶ 4月10日

休館日:月曜日・祝日の翌日(3月21日開館、22日休館)

入館無料 9時～16時

高崎市歴史民俗資料館

〒370-0027 群馬県高崎市上滝町1058 Tel/Fax:027-352-1261

記念事業

参加費無料、要予約2月8日㊥より受付
申し込み先着順

- ▶ 講演会(定員50名 場所:高崎市歴史民俗資料館) ◀
 - 「雛の節供と習俗」 2月26日㊥ 10:00～12:00
講師:群馬県立歴史博物館学芸員 神宮 善彦氏
 - 「雛の道」 3月12日㊥ 10:00～12:00
講師:雛研究家 石原富士雄氏
- ▶ 春の史跡めぐり(定員30名、小雨決行、集合:高崎市歴史民俗資料館) ◀
 - 「元島名地区編」 3月26日㊥ 9:30～12:00
講師:元高崎市史編纂専門委員 横倉 興一氏

後援:上毛新聞社・高崎市民新聞社・ラジオ高崎

雛の今昔物語

本来三月の節句は「上巳節供」「雛節供」といいます。また、雛祭りには山野で花見などを行なったことから、春の農作業に先駆けて田の神を迎える山籠りの儀礼の一つとも考えられています。

雛人形は、三月上旬の農事前に穢れを祓うために流す人形（形代）が起源という説もあります。「紙雛」は古代の人形に由来を求められるもので、人々は子供に降りかかる災厄を被いました。また雛は男女一対に限らず、天神や祢雛など様々な人形に表現されました。

今回、普段は脇役の雛たちにもスポット当てて展示します。また、高崎周辺の雛人形の流通や民俗なども紹介します。ちょっと変わった雛の今昔物語をお楽しみください。

古今雛 雅楽(江戸時代後期・個人蔵)



高崎市歴史民俗資料館

〒370-0027 群馬県高崎市上滝町1058番地

TEL/FAX 027-352-1261

E-mail: rekimin@city.takasaki.gunma.jp

URL: <http://www.city.takasaki.gunma.jp/soshiki/rekimin/>

【交通案内】

-  バス JR高崎駅西口(群馬中央バス)
県立女子大学行き約30分 慈眼寺裏下車徒歩3分
JR高崎駅東口(群馬バス)
竜里町JAビル行き約20分 下滝西下車徒歩8分
JR高崎駅東口(ぐるりん)
群馬の森線 滝川郵便局下車西へ徒歩15分
-  車 関越自動車道(高崎IC) 5分